

平成29年度内閣総理大臣賞理由概要
水産部門

つくる人と食べる人の新しい関係

○氏名又は名称 綾里漁業協同組合青壮年部（代表 大平 秀男）

○所在地 岩手県大船渡市

○出品財 経営（地域活性化）

○受賞理由

・地域の概要

大船渡市綾里（りょうり）地区は岩手県沿岸南部に位置し、大船渡市の中心部から約15km離れている。人口は約2,600人、そのうち約6割が漁業関係者として従事している漁業の町である。地域住民の足として重要な三陸鉄道南リアス線が通り、観光スポットとして知名度の高い「恋し浜駅」が立地している。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

当青壮年部では、地元で獲れるワカメ、ホタテの知名度向上による経営の安定を図るため、「早採りわかめ磯一番」「恋し浜ホタテ」と名付け商標登録し、販売活動を行っていたが、東日本大震災により地域の漁業が甚大な被害を受け、養殖生産物や養殖施設などあらゆるものを失うこととなった。

綾里地区の復旧に大きな役割を果たしたのは、震災前の販売活動により綾里を知っていた消費者であり、ボランティアとして何度も綾里に足を運んでいるうちにそれまで以上に綾里に愛着を感じるようになった。このことにより、地域の漁業関係者全体も消費者との繋がり的重要性を再認識し、消費者との交流の推進がより一層図られることとなった。

・受賞者の特色

（1）「食べる通信」の発行と読者との交流活動

青壮年部自らが「綾里漁協食べる通信」を発行したことで、綾里に熱心に訪れる読者やボランティアの地域や漁業への理解がさらに深まった。こうした理解の深まりに生産者が喜びを感じるようになり、交流への意識がさらに前向きとなる等生産者と消費者の関係性において好循環が生まれている。

（2）恋し浜ホタテデッキと浜の学び舎

生産者と綾里を訪れる消費者達との交流施設として「恋し浜ホタテデッキ」を作り、青壮年部員が中心となって綾里の旬の水産物を題材に講義や作業体験を開催する「浜の学び舎」などの活動を行うことで、消費者との交流が広がっている。

（3）「綾里ファンクラブ」の発生

交流活動が発展していく中で、消費者の一部から「綾里ファンクラブ」が自然発生し、ファンクラブ員が自ら綾里の水産物を各地のイベントで紹介したり、SNSを活用して販売を支援するなどの活動を行っている。

・普及性と今後の発展方向

積極的な情報発信が実を結び、生産者と消費者が交流を通じて新しい関係を築き、消費者が生産者側と同じ考え方の下で地域を応援するという形に発展している好事例であり、漁村地域における活性化のモデルとなることが期待される。